



(第39号)

航跡

早稲田ヨットクラブ

2002年4月発行

発行者：理事長 守屋光雄

編集：事務局長 平戸雅幸

2002年度総会開催される

早稲田ヨットクラブ理事長 守屋光雄（40年卒）

2002年度早稲田ヨットクラブ総会は、2月15日（金）午後7時より赤坂永楽クラブにおいて。出席者数58名、現役学生も全員が参加して開催されました。



2002年度総会 赤坂永楽クラブにて

例年同様、今年も出席者の顔ぶれを見ますと若いOBの姿が僅かであったことは真に残念です。来年度はさらに多くの会員に出席願えるように努力いたしたいと思います。

また、小澤名誉会長も、当初出席の予定でしたが、当日体調を崩されて、急遽の欠席となりました。

翌日、総会の報告を兼ねてお電話したところ、電話口では大変お元気な様子でした。

今回の総会開催では、総会をスムーズに進行させるため、詳細な総会資料を作成しました。特に、出欠確認で返送されたOBの近況メッセージは、ご返事のあったOB全員のものを掲載しました。小澤名誉会長はこれに目を通されて、シニアOBからのメッセージを見られ、当時の話題を思いだされて盛んに懐かしがっておられました。

【2002年度総会 議 事 要 旨】

開始に先立ち、昨年亡くなられOBの方々へ、参加者全員で黙祷を捧げ哀悼の意を表した。今年の総会では、**議案** 2001年度活動報告及び収支決算、**議案** 2002年度活動計画及び収支予算、**議案** 2002年度役員選任の3議案について、執行部より提案し、異議なく原案どおり可決された。今回の総会をもって会長を退任される石井氏（28年卒）と新たに会長に就任される土肥氏（36年卒）にご挨拶を頂いた。続いて2002年度早稲田大学ヨット部のスタッフと新役員を紹介、小池監督と洪田主将からは今年にかける強い決意が披露された。これに対し、出席者から期待と激励の意をこめた掛け声と大きな拍手があった。総会は7時50分に終了し、引き続いて懇親会に移り、会員相互の親睦を深めた。

議案 早稲田ヨットクラブ2001年度主な活動報告及び収支決算

1. 理事会開催

開催回数 10回(2月・8月を除く)
 検討内容 毎月の収支状況、年会費の状況、
 大学側の対応、ヨット部の現状、OBヨット
 レースの計画・成績ほか

2. 会報「航跡」の発行

10月発行

3. 稲魂運行報告

運行日数 40日(実技8日 整備7日)
 延乗員 413人(実技192人)
 GPS購入 35万円
 エンジントラブル 18万円

4. 慶弔関係(早稲田ヨットクラブ以外)

岡本豊(岡本造船)1月逝去
 河本氏(三田ヨットクラブ)4月逝去
 小島OBご尊父7回忌
 藤田氏(稲門体育会名誉会長)6月逝去
 横浜国大ヨット部創部式典(1月)
 横浜市大ヨット部創部式典(5月)

5. JSAF役員激励会

早慶OB有志により6月12日、飯田橋エド
 モントホテルにて開催。参加者37名
 (三田ヨットクラブもほぼ同数が参加)

6. OBヨットレース

- (1) 10大学ヨットレース
 6月2日・3日諏訪湖不参加
 (2) 全日本Aクラスディンギー選手権大会
 6月30日・7月1日 江ノ島
 成績11位
 (3) 東京6大学ヨットOB戦 7月14日
 葉山 成績6位
 (4) 関東Aクラスディンギー&Sクラス選
 手権大会 8月12日 初声マリーナ
 成績 Aクラス7位 Sクラス1位
 (5) 4大学OBヨットレース 10月14日
 葉山 成績3位

7. ヨット実技

8月1日~11日佐島マリーナ 受講生80名
 35年間の千葉・岩井海岸から佐島マリーナ
 に移して実施。受講者数が減少傾向にあった
 が、今年の参加応募者は大幅に増加して定員
 をオーバーした。大学体育実技の中でも上
 位にランクされた。

8. 年会費徴収

郵便局振替を新設。徴収効果を高めた。

2001年度収支計算書

(2001年1月1日~2001年12月31日)

収入の部		支出の部	
項目	実績	項目	実績
前年度繰越	678,752	大学ヨット部補 助金	2,500,000
年会費	4,120,000	コーチ補助	260,000
寄付金	100,000	諸会費・会合費	414,585
会合費	248,000	慶弔交際費	273,100
補助金	284,990	OBレース費用	120,000
雑収入	381,861	印刷通信費	353,216
		自動引落とし手 数料	51,660
		稲魂維持費	961,125
		予備費	100,000
		雑費	68,576
		特別基金への振 替	540,000
		次年度繰越	171,341
合計	5,813,603	合計	5,813,603

特別基金	
項目	実績
前年度繰越	1,580,454
年会費	380,000
利息	623
一般会計から の振替	540,000
合計	2,501,077

(会計監査人は米田晴二、木村光成両氏)

議案 2002年度活動計画&収支予算

活動方針

早稲田ヨットクラブは、21世紀に相応しいクラブライフづくりに努め、新生早稲田ヨットクラブの実現を目指す。

早稲田大学ヨット部の「全日本学生選手権での優勝」をキーワードに、早稲田大学ヨット部のさらなる進化をはかる。

その目標達成に向けて、OB・学生が一体になった活動を展開する。

具体的活動計画

- 1. 現役学生をサポートするために、
スタッフ部門を充実強化する。
- 2. 現役学生レースへの技術的援助・経済的援助を積極的に行う。
- 3. 次期レスキュー計画の原資として、特別基金を2005年度末までに500万円を目標とする。
そのため、クラブ年会費の徴収精度を高める。
- 4. OBヨットレースへの積極的参加・出場
- 5. クラブ会員相互間の円滑なコミュニケーションの確立
 - (1) メーリングリストへの参加・有効活用
ホームページの活用
 - (2) 会報「航跡」の年2回発行
 - (3) 同期会の積極開催
 - (4) 会員の理事会への参加
- 6. クラブ改革への方向性・指針の検討

2002年度収支予算計画

収入の部		支出の部	
項目	実績	項目	実績
前年度繰越	171,341	大学ヨット部補助金	2,500,000
年会費	4,200,000	コーチ補助	300,000
寄付金	200,000	諸会費・会合費	650,000
会合費	500,000	慶弔交際費	350,000
補助金	200,000	OBレース費用	250,000
雑収入	100,000	印刷通信費	500,000
		自動引き落とし手数料	52,000
		稲魂維持費	450,000
		予備費	100,000

		雑費	75,000
		次年度繰越	144,341
合計	5,371,341	合計	5,371,341

特別基金	
項目	実績
前年度繰越	2,501,077
年会費	380,000
利息	500,000
利息	
合計	3,381,077

議案 役員を選任

役職名	氏名
会長	土肥丈志 (36年卒)
理事長	守屋光雄 (40年卒)
事務局長	野口正文 (53年卒)
理事	濱田 裕 (30年卒)
	岡戸義一 (42年卒)
	石合幸彦 (42年卒 兼実技講師)
	原田浩二 (46年卒)
	平戸雅幸 (48年卒)
	小池充郎 (57年卒 兼監督)
	宮澤貢 (62年卒 兼学院監督)
	久保田悟 (62年卒)
	畠山知己 (平6年卒 兼コーチ)
監査役	木村光成 (38年卒)
	長沢和彦 (41年卒)

大学ヨット部スタッフ及び学生役員

監督	小池充郎 (57年卒)
ヘッドコーチ	大原義昭 (53年卒)
コーチ	加藤文生 (33年卒)
	諏訪康弘 (平3年卒)
	畠山知己 (平6年卒)
主将	洪田宏和 (人間科学部)
主務	門林寛之 (商学部)
渉外	中箸 豊 (社会科学部)

石井会長(28年卒)退任のご挨拶

- 会長退任にあたって -

石 井 章 夫(28年卒)



2002年度総会にて

会員各位には元気にお過ごしのことと思います。戦後最悪の経済情勢、リストラの嵐が吹きまくる中でそれぞれ奮闘されている事と思います。ここに会員各位に航跡の誌上をお借りして退任のご挨拶を申し上げます。

私の在任期間の2年は常識的に適当であったと思います。私も会長職をお引き受けするにあたってなるべく早く次期会長に引き継ぐことを考えておりました。幸か不幸か昨年末に胆嚢全部の摘出手術を受け入院治療を余儀なくされました。普段は病気になることもなく健康の部類に入ると考えておりましたのでいささかショックでした。

昭和23年同期入部した関西の天神・円谷の両君を先に失い、さらに同期入部村瀬君を昨年病気で失い残る親しい同期は佐伯君のみとなりました。村瀬君とは名古屋にて若かりし頃A級や505級で中部日本長距離レースにおいて連戦連勝だったこと、伊勢湾台風で2艇とも流失したことも懐かしく思い出されます。

ヨット部にとって大きな経済効果をもたらす大型艇を提供した武村OBをはじめ、連日その操艇に当たられた浜田OB、舟岡OBほか各位には、

誌上をお借りして心からお礼申し上げます。

私と云うよりOB各位が大きく望んでいた対慶応戦績も一昨年でタイ、昨年で勝ち越しとなりました。特に昨年は大勝利でした。私見ですが両者の間にセーリング技術、タックティクス共に相当の差があるように見受けました。私の在任中で最も嬉しかったことのひとつです。

ここ数年、関東有力校OBの間にも世代交代の機運があるように見受けます。慶・東・法・立・明・日・中それぞれの会長は昭和30年後半以降の卒業が多いようです。

新会長土肥丈志氏とは親しくお付き合いを願っております。改めてご紹介する必要もないと思いますがヨットが非常にお好きでヨットに対する情熱には頭が下がります。特に大型艇の経験は私どもの遠く及ぶところではありません。現役時代はスナイプの名手として活躍されました。

現役のコーチとして現在も活躍中の同氏にお願いすることはご本人も覚悟されていることと思います。活躍を期待しております。

ここにあらためて小澤名誉会長のご自愛とご健康をお祈りして、拙い筆を置かせていただきます。

土肥丈志(36年卒)新会長挨拶 早稲田ヨットクラブ会員の皆様へ

この度、早稲田ヨットクラブ会長を御引き受けするに当たり、私の所信を簡単に表明させて頂きま

す。まず本クラブの目的は、規約第2条に明記されておる如く会員相互の親睦を図り後輩の指導に当り、もって早稲田大学ヨット部の発展に寄与する事と明記されております。

この理念を今後のクラブ運営の基礎としてまいりたいと存じます。

皆様良くご承知の通り、ヨットと言うスポーツは楽しみ方は異なっても生涯を通じて親しむ事の出来るスポーツであります。然し最近の学生諸君達は其の4年間と言う短い期間のみで、社会人となった途端に全くセーリングの世界から疎遠に成る人が多いように感じます。それでは現役学生諸君の指導はおるか、自分達自身ヨット界において指導的立場に立つ事ははなはだ困難であります。

早稲田のラグビーが最近良く取り上げられますが、ラグビー部が強いのは多くの先輩ラガーが社会人ラガーとして活躍しており、現役時代の経験の上に更に社会人に成ってから継続して競技を続けて熟練度を増し技能を向上させて居るからだと思ひますが、皆さんは如何御考えでしょうか。

我がヨット部においてもこのような観点から広く現在の総ゆる体制を見直す時が来ていると考えて居ります。早稲田ヨットクラブのメンバーが一人でも多く社会人セーラーとして競技の場で活躍し、更に一人でも多くのメンバーがセーリングを日常の事として楽しむように成れば、其の結果としてかつての早稲田がそうであったように多くの優れたオリンピック選手や優れた指導者をセーリング界に送り出し、学生諸君が全日本にも勝つ事が出来るように成るのではないのでしょうか。栄光と伝統のある早稲田ヨットとはそのような事を指して言うのだと思ひます。

これからは、そのような目的を達成する為に早稲田ヨットクラブは如何にあるべきか、それを皆様と一緒に考え又実行して行きたいと存じます。幸いにして我が早稲田ヨットクラブの会員の皆様は、小澤大先輩以下全員が熱意溢れる先輩後輩ばかりであります。

これら諸先輩後輩の皆様のご協力を得て、以下の三点を重点的に取り上げて行きたいと存じております。

開かれた理事会中心の運営

第一は、クラブに関する総ての活動や決定に関して、理事会を中心にして学生の活動等も含め最大限のデスクロージャーを図る事でありませ

土 肥 丈 志 (3 6 年 卒)

会長始め総ての役員を選任する場合の過程や方法等についても、より透明度の高い方法等も今後検討したりして行かねばならないと考えております。そして一人でも多くのOB諸氏にクラブの運営に参加して戴けるような、開かれた環境を作る事だと信じております。

早稲田は一つ

第二は、早稲田ヨットクラブはあくまで一つでなければ成らないと言う点であります。既に卒業生の総数は500人を超え、物故者の為、減員したとは言へなお会員数は500人に達しようとしております。これら多くの会員の皆さんが一つに纏まり、第2条の目的を追求してこそ大きな力と成り得るのだと信じております。そしてその結果、学生に対して充分とは言へなくてもより多くの財政的援助や其の他有形無形の援助が可能に成るのだと信じております。

全OBの友好と結束の強化

第三は、以上の如く会員の結束を図る為に、OBによるA級ディンギー対抗戦、早慶戦、四大学戦、十大学戦等などの対外的催しに一人でも多くのOBが参加できるように、クラブとしての応援体制を最大限整える事が重要だと思ひます。

これについては、多くの早稲田ヨットクラブの会員諸氏が、過去多くの御苦勞をされて企画や実施に当られて参りましたが、このような時こそ又と無い早稲田ヨットクラブ会員の結束を図る絶好の機会として捉えて今後は取り組んで行きたいと存じます。

余りにも内外に有名な小澤初代会長、又御人柄の石井第2代会長と受け継がれた伝統ある早稲田ヨットクラブの会長と言う大役を、果たして大過無く勤める事が出来るか、内心不安を禁じ得ませんが、お引き受けするからには非力ながら全力を挙げて早稲田ヨットの為に努力致しますのでOB各位のご支援とご指導を切に御願ひ致す次第であります。



ハウステンボスマリーナの愛艇ダボハゼにて

野口正文(53年卒)事務局長退任のご挨拶

- 事務局長を終えて -

この度、会社の転勤により事務局長を平戸理事
にお願いすることとなりました。

理事、会計、事務局長と3年間早稲田ヨットク
ラブの会員の皆様、現役の学生の皆様、他大学O
B会の皆様に大変お世話になり有り難く厚くお
礼申し上げます。

O B会の理事に就任する際に、O B会活動を通
じて現役学生を支援したいと思いました。また、
私の学生時代にはO Bの皆様から大変お世話に
なり、その恩返しは、できる時に行わないとなか
なかできないと思っておりましたので理事をお
引き受けいたしました。

O B会活動を通じて、多くのO Bの皆様とお話
を持つ機会を得ることができて私の一生の財産
と思います。また、多くのO Bの皆様方が学生を
支援しようと思う気持ちに接して会社とは異なる
世界を体験でき有益な3年間であったと思いま
す。会社生活は短いですが、ヨットライフ、早
稲田ヨットクラブの会員は、会社卒業後も続きま

野 口 正 文 (5 3 年 卒)

す。

総会案内のご返事で、高齢のO Bの皆様を始め
とする近況報告を拝見しますと、O B全体が学生
を応援していることがよくわかります。

今年は、江の島で全日本学生ヨット選手権が開
催されます。優勝を祈念します。

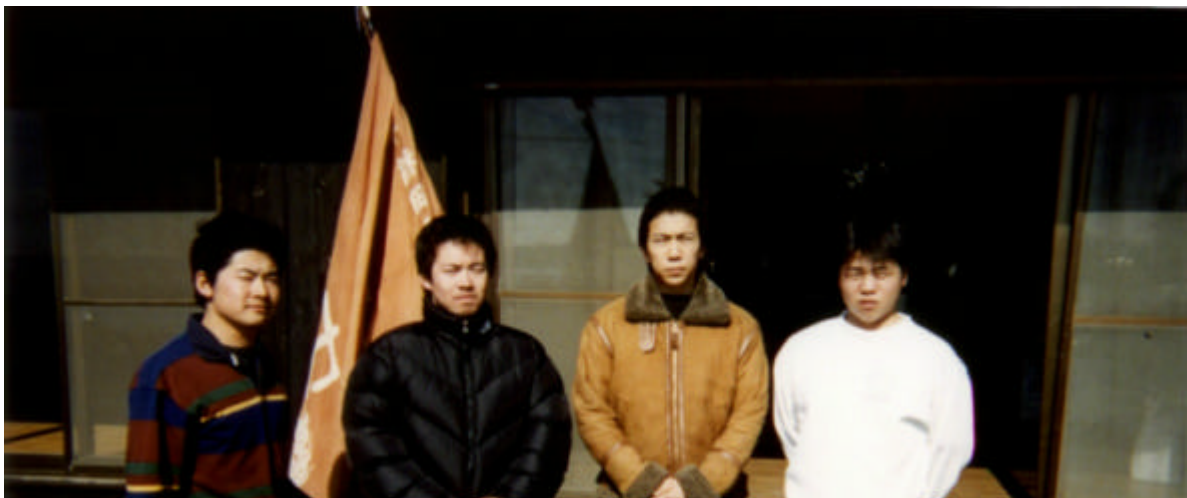
最後に2点お願いがあります。

1. 全国のO Bの皆様、どうしても早稲田でヨ
ットをやりたい高校生を見つけて下さい。
育てて下さい。
2. 平戸新事務局長を応援して下さい。必ず返
信下さい。

住所(連絡先)、メールアドレス変更の際は
必ず平戸新事務局長へ連絡下さい。

O B会費を払って下さい。銀行振込をお願い
します。事務局業務の効率化にご協力下さい。
**勿論、今後も積極的にO B会には参加してい
くつもりであります。**

新O Bから一言



左から山岸納、田川健人、永野間淳二、保田望の新O B各氏

三戸浜合宿所にて

保田 望(早稲田大学高等学院出身)

学院時代より7年間ご指導ご協力頂き、ありが
とうございました。

早稲田大学ヨット部という最高の運動部にめぐ
りあい、そこで非常に充実した時をすごせたこと
を、うれしく思っております。

これからは早稲田ヨットクラブの一員として、早
稲田ヨットクラブ、早稲田大学ヨット部、早稲田
大学高等学院ヨット部の益々の発展に、少しでも
お役に立てればと思っております。

これからも変わらぬご指導ご鞭撻の程、よろしく
お願い申し上げます。

田川 健人(県立唐津西高校出身)

まず始めに、4年間いろいろと御支援・ご指導
ありがとうございました。これからは、4年間早
稲田大学ヨット部で学んだ、人間関係や協調性な
どを生かして、社会という大海の中でも精進して
いきたい。また、自分自身もヨットをレジャー・
競技に関わらず、なんらかのかたちで続けていき、
ヨットに関わりながら生きていきたいと考えて
います。

そして新O Bとして、時間の許すかぎり現役の
役に立っていきたいと考えています。練習を見たり、
試合の手伝いなど自分にできることがあれば

サポートしていきたいと思います。

山岸 納 (県立横須賀高校出身)

O Bの皆様には、四年間様々な形でお世話になり、誠にありがとうございました。ヨット部において、過ごした四年間は大変充実したものであったと考えます。辛かったこともあったと思いますが、振り返ってみると思い出されるのは、良き思い出ばかりです。特に、最後の全日本インカレは、肉体的にも精神的にもハードなものでありましたが、最終日まで優勝戦線に絡むことができ、非常に貴重な経験をする事ができました。四月からは社会人としてのスタートを切りますが、ヨット部において学んだことや経験をもとにさらなる飛躍を目指していきたいと考えます。

永野間 淳二 (日大高校出身)

新O Bとしての抱負ということですが、ヨット

部に入ってから4年間があまりにもあっという間に過ぎてしまってなかなかO Bになったという実感が湧いてきません。しかしながら短い4年間ではありましたが、この4年間の体験から勉強では決して学ぶことのできないことを数多く学ぶことができました。ヨット部の活動を通して物事への取り組み方や、諸先輩方のアドバイスを重く受け止め感謝するというのが、本当に大切であるということを実感しました。今後は学んだことを大学院での生活に活かしていきたいと思っています。また練習にO Bの方が来てくれた時は本当に助かったので、なるべく時間を見つけて現役の手伝いをしたいと思います。O Bの方々の協力なくしては全日本インカレ総合3位という成績はありえませんでした。ありがとうございました。今年は優勝してくれると思います。

平成14年度の大型艇「稲魂」活動について

濱田 裕 (30年卒)

「稲魂」は、レース艇ではありません。ヨット・クルージングの基本的な事を学びながら、海と風の関わり合いを、如何に楽しもうかと言う、仲間を如何に増やすかと考えています。

今年も活動は、基本的には昨年実績同様に(第38号クラブ報参照)運航します。

特に、各O B諸兄が、一度は乗船してください。学生部員を含め、同期会や家族、勤務先、友人、その他のグループで活用して下さい。動かすことが艇のメンテに必要です。

運航計画について

定期運航は、毎月2回、年間を通じて24回。

油壺ポートサービスに

夏(4月 9月)10時、

冬(10月 3月)11時集合。

「体育実技」の研修艇として、回航を含め11日間。

佐島マリーナにて、8月2日 8月12日

* 是非この実技の機会に各O Bの支援をお願いします

学生、O Bレースの本部艇、支援艇、観覧艇として

* 5月連休 春季関東インカレ(森戸)

* 5月18日(土)第2回早慶O Bレース(葉山)

* 6月1日(土) 2日(日)

第67回早慶定期戦(三戸浜)

* 7月13日(土) 東京六大学O Bレース

(葉山)

* 9月末東京六大学、五大学定期戦(森戸)

* 10月初旬 秋季関東インカレ

10月27日 11月2日 全日本インカレ

(江の島)

運航予定の連絡方法について

* 運航予定を、毎月の前月末に「早稲田ヨットクラブ」メーリングリストに掲載

WYCML@egroups.co.jp

* 油壺ポートサービスの場所はホームページを見て下さい。油壺ポートサービスのURL

<http://aburatsubo.com>

* 独自に運航予定のある学生、O Bの場合、前月25日までに濱田宛に連絡

E-mail: yhamada@din.or.jp

TEL・FAX・0426 44 8261

ケイタイ・090-1043-2507



平成14年度の実技計画について

石合 幸彦(42年卒)

拝啓、春分の季節、OBの皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。毎回ヨット実技には格別の御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

早いもので、今年度の実技も近づいて参りました。今年度につきましても、昨年同様、佐島マリナーで開催すべく準備を進めております。

14年度ヨット実技スケジュールに付きましては、下記のスケジュール表の予定でありますので、OBの皆様の御協力、宜しくお願い申し上げます。敬具

実技講師 石合幸彦

14年度実技(佐島)スケジュール表

日付	内容
8月7日 (水)	13:00 実技B開講式 15:00 授業開始
8月8日 (木)	実技B 授業
8月9日 (金)	実技B 授業
8月10日 (土)	実技B 授業
8月11日 (日)	実技B 授業
8月12日 (月)	AMテスト 12:00 実技B閉講式 PM 撤収 ディンギー、紺碧、稲魂、 回航 ゴムポート返却
8月2日 (金)	ディンギー、紺碧、稲魂、 げっこう回航 ゴムポート借用 (状況によりディンギーは前日回航) 各艇10:00佐島集合 開講準備 13:00 実技A開講式 15:00 授業開始
8月3日 (土)	実技A 授業
8月4日 (日)	実技A 授業
8月5日 (月)	実技A 授業
8月6日 (火)	実技A 授業
8月7日 (水)	AMテスト 12:00 実技A閉講式

2002年度OBヨットレースについて

昔も今もヨットマン 若きも老いもヨットレース

今年も昨年同様「OBによる」「OBのための」ヨットレースを計画しています。

現在、具体的内容については未定ですが概要をご案内いたします。

多くのOBが参加され、ヨットレースへの思いを馳せ、もう一度、青春時代を呼び戻してください。また、それぞれのヨットレースチャンスに当時のヨット仲間、とくに他大学のOB仲間と旧交を温めていただきたいと思ひます。

早慶OBヨットレース

日 時 5月18日(土)

場 所 葉山マリナー沖

早慶OBヨットレースは一昨年、早稲田 慶応どちらからとなく「ヨットレースをやろう」という掛け声が持ち上がり開催いたしました。現役学生のW-K60回を記念して、その盛り上がりは計画の段階からヒートアップ。レース結果も熾烈な展開の中引き分け。

今年第2回目を迎え早稲田が幹事校です。世に数多くある対抗戦の中で「早慶戦は名実ともに確固とした地位を築いています」。今回は、会長/理事長艇、女子スキッパー艇、若手同年代艇など対抗戦を面白くする工夫を検討しています。今年も名勝負が期待されます。

(委員 鈴木賢太郎(30年卒) 平戸雅幸(48年卒) 久保田悟(62年卒))

10大学OB ヨットレース

日 時 6月1日(土)2日(日)
場 所 長野県諏訪湖ヨットハーバー

今年で16回目の開催を迎えます。名称は10大学ですが、参加校も増えて昨年は16校となりました。今年もまた何校か増えることでしょう。昨年早稲田ヨットクラブは参加者が集まらず残念ながら初めて不参加となりました。他校から「早稲田が参加しないレースは主役のいないドラマ」と揶揄されました。このレースの歴史には早稲田ヨットクラブの堀江さん(昭和16年卒)加藤久直さん(23年卒・平成13年逝去)が運営に大きく関わり縁のあるレースです。ややアクセスに難がありますが、観光・温泉を兼ねて参加していただきたい。
(委員 木内博太郎 (40年卒))

東京6大学ヨットレース

日 時 7月13日(土)
場 所 葉山マリーナ沖

昨年発足したOBレースです。第1回は駿台セーリングクラブ(明治)が優勝。早稲田は6位、というより最下位の成績でした。昨今学生スポーツの人气が凋落していますが、日本の学生スポーツ界をリードするのは東京6大学の歴史と伝統によるところ大です。意義の高いレースです。東京6大学は神宮の杜だけではありません。相模湾で6大学が海の王者を競い、老いも若きも往年を思い出して夏の1日を楽しみましょう。今年の目標は一つでも順位を上げること、その結果優勝も狙えます。
(委員 岡戸義一(42年卒))

Aクラスディンギー全日本選手権大会

日 時 7月27日(土)28日(日)
場 所 西宮ヨットハーバー

1991年に関東の7校が集まり、スタートした当大会もその輪が広がり、昨年の江ノ島大会は参加チーム30、38艇(北は函館から南は鹿児島まで)300名の参加と大きな大会へと発展しました。

Aクラスディンギーは昭和49年にインカレから姿を消し、今ではこのレースが唯一のAクラスディンギーのレースです。ヨットのルーツAクラスを操れるヨットマンは50代以上のシニアクラスになります。そのシニアヨットマンにとって年に一度のチャンス。ノスタルジーを求めて参加してみませんか。あの赤いボディーに思い出のある方……。
(委員 千葉栄作(30年卒)
加藤文生(33年卒))

4大学OB ヨットレース

日 時 10月中旬
場 所 琵琶湖

歴史のあるOBヨットレース。昨年は30回記念大会で大いに盛り上がりました。早稲田・慶応・同志社・関西学院の4大学が毎年持ち回り幹事で開催します。秋口の開催で天候次第。やや肌寒さを感じますが、他のOBヨットレースとは一味違ったホットな雰囲気のあるレースです。関西在住OBのかたの参加を望みます。レース前日の前夜祭がまた楽しみの一つです。
(委員 未定)

OBレース一覧表

大会	開催場所	日時	幹事
早慶OB ヨットレース	葉山	5月18日	鈴木
0大学OB ヨットレース	諏訪湖	6月1日、2日	木内
6大学OB ヨットレース	葉山	7月13日	岡戸
Aクラスディン ギ全日本選手権	西宮	7月27日、28日	千葉 加藤
4大学OB ヨットレース	琵琶湖	10月12日、13日 (未確定)	未定

合宿所開き（2002年2月11日）

快晴の三戸浜で合宿所開きが行われた。ヨット部員、新OB（4年生）、監督、コーチ、理事長、実技講師等OB諸氏が参集した。10時から三戸神社において、安全なクラブ活動、全日本優勝、学業成就を祈念した祈願祭が厳かな中執り行われた。皆の心が一つになった。



三戸神社にて

その後、小島合宿所において小宴。OBからの激励の言葉の後、渋田新主将から今年の部訓が紹介された。“**笑顔**”である。明るく、楽しく、元気良く、そして全日本優勝を誓った。

新上期からの一言メッセージ

- 今年の目標は全日本インカレ優勝です！！

渋田宏和 人間科学部 スポーツ科学科 3年
主将（私立西南学院高校出身）

私は今年ヨット部の主将を務めさせていただきます渋田宏和です。今年の目標は全日本インカレ優勝です。昨年ヨット部は全日本インカレで優勝こそ出来ませんでした。総合3位という好成績で終わる事が出来ました。私はその原動力となったものはヨット部員の団結力であったと思います。個人の成績だけでは団体戦を勝ち抜くことは出来ません。実際インカレはチームの総合得点で勝敗が競われます。個人がどれだけチームに貢献することが出来るか、つまりどれだけチームに信頼関係が存在するかが重要なのです。悲願である全日本インカレを制覇するために今年は昨年以上にチームの団結力の向上を図りたいと思います。最後になりましたがOBの皆様方、今後とも協力ご支援よろしくお願ひいたします。

稲葉洋介 人間科学部 スポーツ科学科 3年
470リーダー（県立唐津西高校出身）

今年の目標はもちろん全日本インカレ完全優勝です。今年は部の雰囲気も大変よく近年に無いほどの団結力を持っているので、必ず優勝することが出来ると思います。私は今年度470リーダーを務めさせていただきますが、リーダーとしてヨットの技術よりもチーム全員に優勝に対しての高い意識を持たせることが私の役目だと思っています。私個人の目標としてはこれから行われるすべての大会においてMVPを獲る事です。OBの皆様方、今後ともご支援よろしくお願ひします。

中箸 豊 社会科学部 3年
渉外（東邦大学付属東邦高校）

早稲田大学ヨット部の活動も早いもので、今年が最後になりました。私たちの学年にとって集大

成となる今年は、今まで達成することのできなかつた全日本インカレ優勝ができるように部員一同団結してがんばります。今年全日本インカレは江ノ島で行われ、有利な点が数多くあると思うので、それらを活かし絶対に優勝したいです。また、今年の早慶戦は勝ち越しと史上初の五連勝が掛かる試合なので絶対に勝ちます。個人的な仕事に関しては涉外としてOBの皆様にはできるだけ早く、試合日程や試合結果などのご報告をしていきたいと思ひます。今年一年間、最上級生としての自覚を持ち、全てのことに全力で望み、早稲田大学ヨット部にとっても自分自身にとっても最高の一年にしたいです。今年もOBの皆様にはご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。

築山明弘 人間科学部 スポーツ科学科 3年
スナイプリーダー（県立唐津東高校出身）
今年度スナイプリーダーを務めさせていただきます人間科学部4年の築山明弘です。私の今年度の目標は一つ、全日本インカレで優勝することです。

そのためには、ヨット部以外での生活など日頃の自分をしっかりと見直すことと、どんな理由があろうと部内では一番でなければならないという責任感を持つことが大切だと思ひます。私一人だけでは全日本優勝できないので、しっかりとコミュニケーション能力を身につけ、みんなの意識を高め、チームとしてのレベルアップを図らなければなりません。自分がしっかりとしたビジョンを持ち、それに伴った行動をして、みんなにも私と同じ責任感というものを持たせた

いと思ひます。

私は、今まで21年間生きてきた自分を上回るものをつくらなければ全日本インカレで優勝することができないと考えています。肉体的にも、精神的にも優れた人間となり、全日本インカレで優勝できるように一生懸命努力していこうと思ひます。

門林寛行 商学部 3年

主務（早稲田大学高等学院出身）

本年度早稲田大学ヨット部の主務を務めさせていただきます門林寛行と申します。今年主務としてヨット部を第一として考え、OBの方々との報告、連絡、相談を怠らず部が円滑に動くよう努力していきたいと思ひます。又ヨットに関しては、今年から自分はスナイプスキッパーをやらせてもらいますが、今年一年間で他の早稲田のスキッパーに引けを取らないスキッパーになり、大学からヨットを初めてもここまでできるんだという姿を周りの人間に見せたいです。今年上期としてチームを引っ張っていかなくてはいいませんが、後輩が自分の姿を見てやる気を出してくれるよう良い見本となります。そして最後にはこのチームで全日本制覇を狙っていきますし、このチームでならそれができると信じています。それだけ今年ヨット部を良いチームに作り上げる自身が我々上期にはあります。

OBの方々にはご迷惑をおかけすると思ひますが、御指導御支援の程宜しくお願ひいたします。

全日本の優勝旗を三戸浜に持ち帰りたいと思ひます



左より、稲葉洋介、門林寛行、築山明弘、中箸豊、渋谷宏和の新上期の各君 三戸浜合宿所にて

事務局だより

< 早稲田大学ヨット部試合日程 >

- ・早慶戦(三戸浜)6/1~2
- ・関東大会(森戸海岸)10月 予選・決勝
- ・全日本選手権(江ノ島)10/27~11/3

< 新OB就職先 >

- ・2002年3月卒業
- 保田望(日本生命) 田川健人(安田生命) 山岸納(麒麟ビール) 永野間淳二(大学院)

< 会費納入の案内 >

会費については、毎年1月27日に銀行口座から自動引落しをさせて頂いております。

まだお済でない方は、OB会銀行口座へ直接お振込み頂くか、または同封の専用郵便振替用紙で、2002年度(2002.1~2002.12)会費2万円を振込み願います。

(銀行振込先)

早稲田ヨットクラブ会費振込先銀行口座：
第一勧業銀行 日本橋支店 1445739
口座名義：早稲田ヨットクラブ

< アンケートの実施 >

21世紀の早稲田ヨットクラブのあり方に関し、アンケートを計画しています。OB各位の忌憚のないご意見やご要望をお寄せください。

また、検討チームへのご参加をお願いする場合もあるかと思しますので、その節はご協力をお願いします。

< ホームページとE-Group >

早稲田ヨットクラブは、ホームページとメーリングリストによる会員のコミュニケーション向上を進めています。

既に、早稲田ヨットクラブ会員を対象に情報交換の場として登録者全員に送信できるメーリングリスト(e-Groupを利用)を開設しています。連絡不要など言わずにインターネットコミュニケーションという最も楽な連絡方法があるのだから、是非利用しましょう。

メーリングリストWYC-MLへの登録は、事務局&星野禎介(H4)までお名前、卒業年次をご明記の上、メールにて申込みをお願いします。

E-mail: teisuke_hoshino@solvex.co.jp

< 理事会の開催 >

理事会に気軽に参加下さい。会員皆様のご意見ご要望をお待ちしております。

日時：毎月第3木曜日

場所：赤坂永楽倶楽部(千代田区永田町2-12-4 山王興和ビル7階) 電話 03-3580-0046

(注)開催案内、議事次第、理事会議事録は

メーリングリストで送信していますのでe-Groupに奮ってご参加ください。

< 寄付の窓口 >

早稲田大学ヨット部へ指定寄付を希望される方は、事務局までお申し出ください。大学の領収書が発行され、税の優遇がえられます。

< ご意見をお寄せ下さい。 >

WYC 会長 土肥丈志

E-mail: doi-takeshi@bea.hi-ho.ne.jp
〒158-0082 東京都世田谷区等々力3-16-19
: 03-3704-1383

WYC 理事長 守屋光雄

E-mail: moriya@ma.catv.ne.jp
〒154-0001 世田谷区池尻3-28-21
: 03-5481-6610

< 事務局長のメールアドレス・電話・ファックス変更 >

早稲田ヨットクラブ事務局長のメールアドレス、電話番号、ファックス番号が変更されました。住所など変更されたかたは下記にご連絡願います。出来るだけメールにてお願いします。

WYC 事務局長 平戸雅幸

〒232-0061 横浜市南区大岡1-52-10
E-mail: masayuki.hirato@nifty.ne.jp
: 045-715-4498
Fax : 045-715-4496

< 編集後記 >

編集人 平戸雅幸

その日、3月10日、野口さんは奥様を伴って、早稲田ヨット部事務局書類や記念品のいっぱい詰まったダンボール数箱を車に積んで、弘明寺に來られた。

3時間足らずの引継の後、沖縄土産の“てびち”と“いなせ寿司”で小宴を行う。

奥様のお話をお聞きして、野口さんだけでなく、奥様の並々ならぬご助力があって早稲田ヨットクラブ事務局が成り立っていたことがよく分かった。

会費の郵便振込(小金井局扱い)については、2002年度分は引き続き奥様にお願いすることになった。

誌上を借りて、改めて、野口さん並びに奥様、本当にご苦労様でした。心よりお礼申し上げます。